

World News

ロケット関連ニュース

1. H-IIA ロケット 10号機により情報収集衛星光学2号機の打上げ成功

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、平成18年9月11日13時35分(日本時間)に、種子島宇宙センターから情報収集衛星光学2号機を搭載したH-IIAロケット10号機(H-IIA・F10)を打上げた。10号機は正常に飛行し、情報収集衛星光学2号機を分離したことを確認した。なお、ロケット打上げ時の天候は、東北東の風、6m/s、気温27.6であった。H-IIAロケットは平成15年11月の6号機の打上げ失敗を克服し、その後続けて4回の打上げに成功したことから、技術水準・経済性ともに世界のトップレベルに達した事を証明した。

打上げ実績:

試験機1号機[平成13年8月29日打上げ]

試験機2号機[平成14年2月4日打上げ]

3号機[平成14年9月10日打上げ]

4号機[平成14年12月14日打上げ]

5号機[平成15年3月28日打上げ]

6号機[平成15年11月29日打上げ] 失敗

7号機[平成17年2月26日打上げ]

8号機[平成18年1月24日打上げ]

9号機[平成18年2月18日打ち上げ]

10号機[平成18年9月11日打ち上げ]

- JAXA 2006.9.11 プレスリリース記事 -



H-IIA JAXA 提供

2. ArianeSpace社はヘリオスIIB軍事衛星打上げ契約調印をした事を発表

ArianeSpace社は2006年9月25日にフランス軍調達本部の承認に基づいて、ArianeSpace社Jean-Yves Le Gall Ariane最高経営責任者と、フランス宇宙省CNESのYannick d'Escatha社長がヘリオスIIB軍事衛星の打上げ契約に調印した。契約は欧州連合(EC)と宇宙欧州連合委員会によって、共同で組織された欧州宇宙、防衛、安全シンポジウムの中で、調印された。ヘリオスIIB衛星の打上げ時重量は約4,200kgで、2009年前半にAriane5によってギアナ宇宙センターから太陽同期軌道に打上げられる。ヘリオスIIB衛星はフランスの纏めのもとでベルギー、スペイン、およびイタリアとの連合体で開発される防衛、安全の第二世代の観測システムを搭載し

た2番目の衛星である。このプログラムはフランスの軍調達本部DGA、国防省の一部によって管理される。DGAはフランスの宇宙局CNESの衛星部門に対する責任を有している。ヘリオスIIA衛星はアストリウム社により開発され、2004年12月にAriane5によって打上げられたが、ヘリオスIIBも同様にアストリウムによって製造される。アストリウムは多くの欧州の下請契約者を束ねており、Alcatel Alenia Spaceも含まれている。同社は高解像度カメラを担当する。また、CNESはToulouse宇宙センターで軌道の位置決めとコントロールセンターの運用を監督する。ヘリオスIIBは30番目のアリアンスペースによって打上げられた軍事衛星となる。
-Arianespace 2006.9.25 プレスリリース記事

3. M-V-7 ロケットは太陽観測衛星

SOLAR-B 衛星を、予定通り9月23日に打上げ成功

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、平成18年9月23日06時36分(日本標準時)に、内之浦宇宙空間観測所から、第22号科学衛星(SOLAR-B)を搭載したM-Vロケット7号機(M-V-7号機)を、ランチャ設定上下角82.0度、方位角149.3度で打ち上げた。M-V-7号機は正常に飛行し、第3段モータ燃焼終了後、近地点高度約280km、遠地点高度約686km、軌道傾斜角98.3度に投入されたことを確認しました。また、SOLAR-Bからの信号受信を、サンチャゴ局にて07時21分(日本標準時)に開始し、この信号によりSOLAR-Bがロケットから分離され、太陽電池パドル(PDL)が正常に展開されたことを確認した。

なお、SOLAR-Bの愛称は「ひので」と命名された。



SOLAR-B 衛星 JAXA 提供



M-V-7 打上げ JAXA 提供

- JAXA 2006.9.23 プレスリリース記事 -

衛星関連ニュース

1. 米国空軍はLockheed Martinで製造された最新のGPS衛星GPS IIR-Mの打上げに成功

Lockheed Martin社は9月25日にケープカナベラルの空軍衛星打ち上げ基地(フロリダ州)から最新のGPS衛星(GPS IIR-M)を打上げ、成功したと発表した。

GPS IIR-15(M)に指定された衛星は、Lockheed Martin Navigation Systemsが、顧客である全地球測位システムのWing、Space、およびMissile Systemsセンター(LA空軍基地,CA)に対し開発している一連の8機の最新のGPS Block IIR衛星の2番目の衛星に当たる。



GPS IIR-M LM 提供

衛星は、今までに開発された最も技術的に高度なGPS衛星であり、米軍と民間ユ

ーザのために大変向上したナビゲーション性能を世界中に提供するように設計されている。衛星は現在全体で29機の衛星星座群の中で最初の最新化されたIIR衛星”GPS

IIR-14(M)”と共に、他の12機の運用中のBlock IIR衛星とを連携し全地球測位システムを提供する予定である。

「私たちは地球の周りのGPSに並べて最も高精度のナビゲーション情報を提供する米空軍とのパートナーシップを誇りに思っています。また、出来るだけ早くこの最新の衛星を運用サービスができるようにチェックアウトを行うつもりである。」と、Don DeGryse Lockheed Martin Navigation Systemsの副社長はコメントした。GPS IIR-M宇宙船はGPSユーザのためにさまざまな拡張機能を提供する。地上での信号感度を増加するために最新のアンテナパネルや、改善された精度に対する2つの新しい軍用信号や、軍のための拡張された暗号化システムと反ジャミング能力、さらに異なった周波数のアクセス信号をユーザに提供する2番目の民間信号など様々な拡張機能を搭載している。

全地球測位システムは、ユーザが正確な時間、速度、世界的な緯度、経度、および高度を数メートルまで測定するのを可能にする。空軍のSpace Command Space Operations Squadron(2SOPS)は第2シュリーファー空軍基地(コロラド州)が民間用と軍事のユーザのためにGPS衛星群を管理して、運用している。GPS IIR-M製造はValley Forge,(ペンシルベニア州)のLockheed Martinの施設で行われている。最新のナビゲーションペイロードはITT

IndustriesによってClifton(ニュージャージー州)によって製造されている。
 また、ロッキード・マーチンはGPS衛星Block IIIとして知られている次世代全地球測位システムを築き上げるシステムの受注活動チームを率いている。新プログラムは最高の反ジャミング能力、さらに改善されたセキュリティ、精度、および信頼性システムを有している。GPS Block IIIは衛星ナビゲーションの性能を高め、位置決めとタイミングサービスの新しい世界規格を設定する事になる。

- Lockheed Martin 2006.9.25 プレスリリース記事 -

2. 大型展開アンテナ小型・部分モデル (LDREX-2)の打上げ日決定

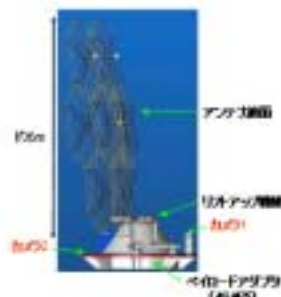
宇宙航空研究開発機構 (JAXA) は、Arianeによる大型展開アンテナ小型・部分モデル2 (LDREX-2) の打上げについて、

LDREX-2の概要

モジュール数	7モジュール(LDRは14モジュール)
モジュールの大きさ	LDRの1/2
質量	211kg (ペイロードアダプタ、カメラ装置除く)
軌道上での実験時間	45分程度
取得データ	動画(2アングル各秒毎)、テレメトリ(44ch)
打上げロケット	アリアン5ECAロケット
打上げ形態	ピギーバック (主衛星は静止衛星2機搭載)
打上げ時期	平成18年9月20日(水) (日本時間)



LDREX-2 展開写真 JAXA 提供



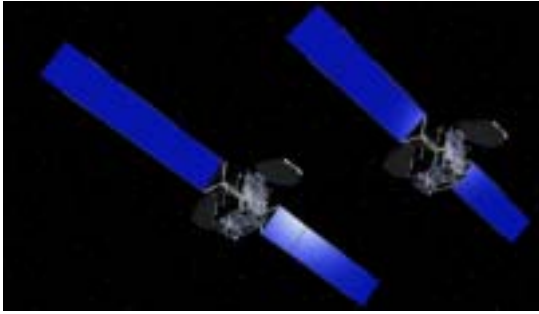
Arianespace社から打上げを平成18年10月13日 (日本標準時) に決定したとの連絡を受けたことを発表した。

- JAXA 2006.9.22 プレスリリース記事 -

3. Orbital社はOptus D1衛星を出荷

Orbital Sciences Corporationは同社で組立てられたOptus D1静止の(GEO)通信衛星がフランス領ギアナの打上げ射場に出荷された事を発表した。同衛星は9月にArianespace社のAriane5ロケットで打上げられる計画である。Optus D1衛星は、OrbitalがオーストラリアのOptus Networksのために組立てている2つの大電力衛星の1番目です。2番目の衛星(Optus D2)は2007年の完成、打上げられる予定である。2機のOptus衛星はOrbitalの新しいSTAR2.4プラットフォームで組立てられた。この衛星はOrbitalが製造した中で最も強力な商業通信衛星で衛星プラットフォームは、およそ5キロワットのペイロードパワーを発生させることができる。Optusプログラムの設計、製造、および試験はDulles, Virginiaで同社の最先端の衛星製造施設で行われている。

今後数週間、Optus、Arianespace、およびOrbitalからの技術者チームは、衛星とロケットの統合が適切に働いているかの保証をするために衛星をロケットと結合して、大規模な一連の総合試験と点検を実行する。Orbitalは小型GEO衛星プラットフォームのSTARシリーズに基づくGEO通信衛星の主要供給者のひとつである。STARシリーズはほとんどのタイプの商業通信衛星ペイ



Optus D1 & D2 衛星 Orbital 提供

ロードに対応で切る能力を有している。
STARデザインは他の衛星製造供給者によって提供された、より大きくて、より高価なGEO衛星への魅力的な代替手段である。OrbitalのSTAR GEO衛星の顧客需要は過去数年間増加し続けている。Orbitalは2005年と2006年前半に米国を拠点とするパンナムサットからSTAR衛星注文を受けて、日本のJSATとパンナムサットの合併会社のHorizons社、ノルウェーのTelenorと、マレーシアのMeasatとSES Americomから受注した。OrbitalはOptus D1衛星を含めて、現在、次の2年間で打上げられる多様な8機の商用GEO衛星の、設計、製造、および試験を行っている。

Optus D1の概要

軌道上重量: 2,380kg
太陽電池発電能力: 4.7KW EOL
姿勢制御: 3軸安定ゼロモーメントム
推進系: 12 0.9N REA Thrusters,
EHTs for NSSK
寿命: 15年
静止軌道: 東経160度
ペイロード: Ku帯 トランスポンダ
Antenna 2枚の2.3m Shaped Ref
- Orbital 2006.8.22 プレスリリース記事 -